

# 夏季・研修会 ご案内

## 日 程・7月29日(火)、30日(水)

講 師・佐野 明弘 師

(京都・大谷専修学院学院長)

講 題・「煩惱具足のわれら」

参加費・3,000円

(1講義=1,000円) 食費込

### 29日 (火)

17:00 受付  
17:30 夕食  
18:20 開講式  
19:00 問題提起  
20:00 講義 1  
22:00 就寝

※食事、宿泊が必要な方は、  
7月25日(金)までにご連絡  
をお願いします。

### 30日 (水)

6:00 起床  
7:00 勤行  
8:00 朝食  
9:30 講義 2  
11:00 座談  
12:00 昼食  
13:30 講義 3  
15:30 質疑応答  
16:00 閉講式  
16:30 如是我聞の宴



# 微妙音

発行所  
無量山 真宗寺

☎ 862-0911

熊本市東区健軍4丁目17-45

☎ (096) 368-3759

☎ (096) 368-3780

E-mail: shinshuji@triton.ocn.ne.jp

郵便振替: 01960-6-52645

加入者名: 真宗寺事務局

## 盆おどり

8月15日(金) 午後7時より

カキ氷、ジュース、焼き鳥、生ビールなど、  
たくさん用意しております。  
くじ引き、輪投げもあります。  
どなたでもご参加できます。  
皆様、お気軽に参加ください。

## 縁が輪くふうっとパーク

日 時・毎月どこかの土曜日

午後4時から午後6時まで

場 所・真宗寺

参加費・無料

※終了後にみんなで夕食をいただきます。

真宗寺で若者居場所づくり「縁が輪くふうっとパーク」を開いています。

学校や職場でもなく家でもない、お寺を第三の居場所として集ってほしいという願いのもと活動が始まりました。

月に一回の定期開催日には、終了後にお寺で用意した夕ご飯をみんなで食べます。

今の時代、ほっとできる場所、居心地のよい場所としての居場所がないと感じている子どもや若者が増えていると言われています。そういった子どもや若者たちの居場所として、みんなが気軽にふらっと立ち寄れて、フラットな関係で、地域社会と接点を持ちながら、それぞれのペースで過ごせる居場所です。

「縁が輪」は若者の居場所としていますが、誰でも参加できるので、いつもとは違う場所で気分転換したいとき、ちょっとひと休みしたいとき、ぜひ足を運んでみてください。

(参加申込は、真宗寺まで。  
☎ 096・368・3759)



みみょうおん

刑事にも人情がある。  
犯人にも事情がある。

テレビドラマ「はぐれ刑事純情派」のキャッチコピー

私が子どもの頃、母親がはぐれ刑事純情派という刑事ドラマを毎週のように観ていた。今も頻繁に再放送しているようだが、藤田まこと演じる主人公の刑事が、毎回のようにドラマが終盤に差し掛かると、行きつけのスナックで一人で晩酌をしているシーンに切り替わる。「ママ」と何か言葉に詰まるように哀愁を漂わせながら、いつも決まって真野あずさ演じるスナックのママに話しかける。そのシーンに切り替わるたび私は子供ながらに「いい年して刑事のくせに、毎晩飲み屋に行くなんて変なの。」と、毎回のように繰り返す刑事の飲み屋通いに、少なからずの違和感と多少の軽蔑さえ覚えていた。

今、あのシーンを大人になって改めて思い返すと、主人公の刑事は早くに妻を亡くしており、妻の連れ子である娘二人を男手ひとつで育て上げ、やり場のない事件や、刑事という社会的立場の中で、どこか鬱屈とした気持ちを抱えながら、日々を過ごしていたのかも知れない。

私も35歳になり、仲のいい友人たちは結婚して子どもがいたり、職場ではそこそこの役職に就いていたり

と、それぞれに人生のライフイベントを謳歌しながら慌ただしい毎日を送っている。

この前、久しぶりに中学時代からの友人に会う機会があったのだが、しばらく会わないうちに子どもたちもだいぶ大きくなっていて、友人は整備士の仕事をしていて、年齢は一緒なのだが、私より落ち着いていて、とても同じ歳とは思えない。そんな彼とキャッチボールをしている時に、「オレも昔より体力がなくなっちゃった。」と会話の端々で、友人がボソボソと独り言のように呟いているのを聞いた時に、私もそんなに若くはないのだなど、今更ながらに実感することがあった。

藤田まこと演じる刑事の哀愁漂う姿に、子どもの頃は違和感と軽蔑さえ覚えていたのに、今となっては共感すら感じている。「昔は良かった」と、郷愁の念に支配されるのはよくないが、あの時の違和感と軽蔑の眼差しが、今となっては自分に返ってきている。人間はそんなに強くない。

真宗寺の鐘の音がゴーンと今日も境内に響き渡り、うつろいゆく刻の無常を奏でている。

(古賀彰)



「おまえは非国民だが非人間じゃねえ」  
「じいちゃん、しずかにそれだけ言った。」

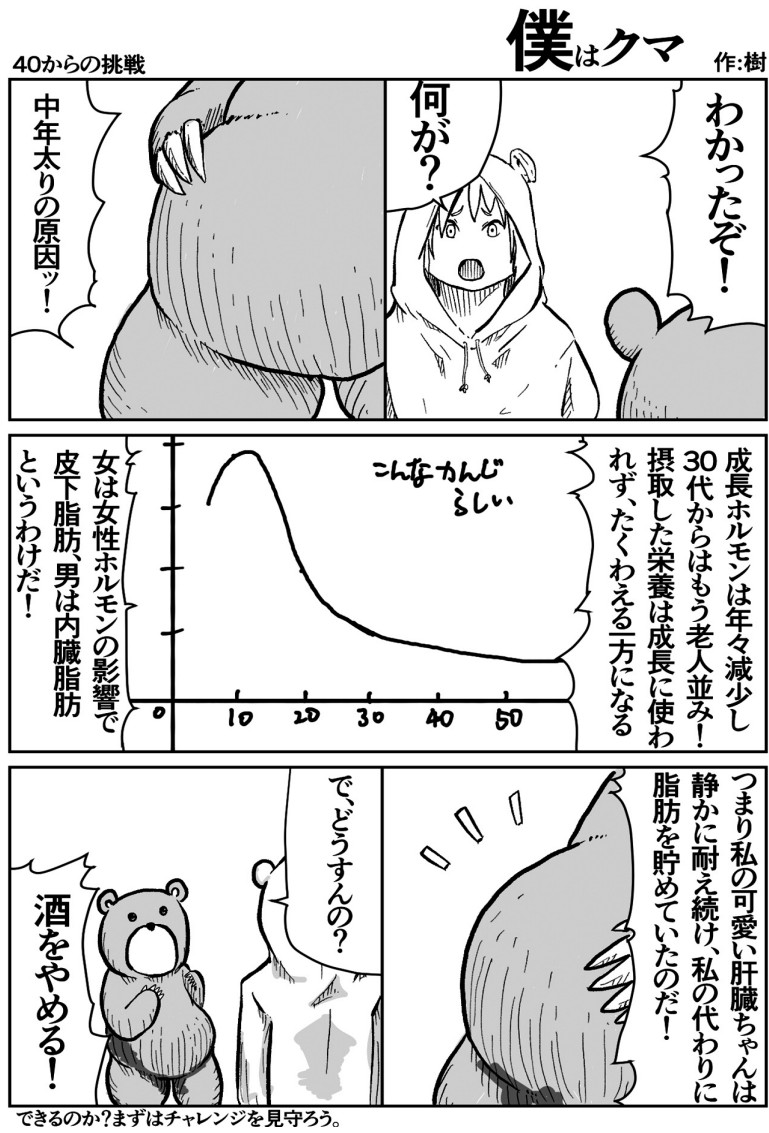
6月12日（木）、熊本市仏教連合会の主催で「戦後80年平和祈念法要と講演会」が熊本城メインホールで厳かに執り行われました。  
今年は、戦後80年という大きな節目の年にあたり、平和への祈りと、戦争の悲惨な記憶を決して忘れてはならないという思いを持って、宗派を越えた僧侶が一堂に会し、厳かで静謐な空気の中で、各宗派それぞれの法要が営まれました。  
講演では、俳優・歌手として知られる武田鉄矢さんが登壇され、「両親との思い出をユーモアを交えながらも真摯に語って下さいました。」  
最後に、武田鉄矢さん原作の絵本「月がのぼるまでに」を熊本のカナウンスターの政木ゆかさんがピアノ伴奏つきで朗読され、静かで温かい余韻を残しながら祈念法要は締めくくられました。

### 熊本市仏教連合会主催 戦後80年平和祈念法要と講演会に参加して 真宗寺門徒 木村文代

熊本市仏教連合会「戦後八十年平和祈念法要と講演会」が六月十二日（木）に熊本城メインホールで開催されました。ご住職様にお誘いいただき、真宗寺の坊守さま、坊守さまのお母さまと憲子さま他四名の七名で参加してまいりました。  
私は仏教の宗派がいくつあるかも知りませんが、熊本市には九宗派二百三寺院者が対して心よりの哀悼の意を表し、今も世界の至る所で紛争や戦火で尊い命が失われ続けている戦争がいかに愚かしいものか、一人ひとりが命の尊さを確かめ合い、仏教精神の「すべての人が救われる」世界の人々が「共に行く道」の教えに平和への祈りと感謝の思いを新たにすべく宗派を超えた僧侶が一堂に会し平和法要を行いますと宣言されました。  
今、ウクライナなどの現状を考えると真に心を打たれました。  
儀式は浄土真宗本願寺派の雅楽・合唱の音楽法要に始ま

を、今も世界の至る所で紛争や戦火で尊い命が失われ続けている戦争がいかに愚かしいものか、一人ひとりが命の尊さを確かめ合い、仏教精神の「すべての人が救われる」世界の人々が「共に行く道」の教えに平和への祈りと感謝の思いを新たにすべく宗派を超えた僧侶が一堂に会し平和法要を行いますと宣言されました。

今、ウクライナなどの現状を考えると真に心を打たれました。  
儀式は浄土真宗本願寺派の雅楽・合唱の音楽法要に始ま



### 佐藤先生のこと 第六回 渡辺京二

2022年12月25日に92歳で亡くなった思想家の渡辺京二さんは、真宗寺とも40年以上にわたって深い縁があり、先代住職との親交も厚かった。  
2012年に勤まった、先代住職二十五回忌法要の際に語ってくださった講話を連載させていただきます。

一つ忘れてはならないのは、みんなが「さーちゃん、さーちゃん」と呼んでいた、咲代夫人でございませうね。それから、また二人の娘さんでございませうね。考えてみればこの先生の奥さん、それから娘との家庭生活というのはないわけでございます。他人がいっぱい入り込んできているわけですから。他人がいっぱい入り込んでいって、その家庭生活らしい家庭生活もない。そういう生活、その坊守さんのお嬢さんと、それから二人のお嬢さんが共になさったということですね。これはやっぱり、一人の男がそういうことをやろうとしても、そういうことを家内が理解してくれない。あるいは子どもが反対する。そういうことが世の中では間々あることなんです。それが真宗寺では、この咲代夫人と二人のお嬢さんが全くお父さんのお気持ちというものと一緒になって生きてこられたということですね。ですから、このお寺はもうろん佐藤秀人先生がつくれたお寺ではあるが、それと共に咲代夫人、それから二人のお嬢さんが共につくれたお寺である。そして、ここで沢山育ってきた青年たちが、それぞれ思い出を残してつくり上げてきたお寺でございませう。

それで、今日お寺というのは、なかなか在り方が難しいわけでございます。一時は葬式仏教になってしまっただけでございませう。批判があつたわけでございますが、仏教は生きた宗教で、生きて人間の信仰でなければならぬ。死んだ人間を弔う儀式ではないんだと。これはもつともでございますけれど、し

り、全宗派平和祈念法要と各宗派平和祈念法要。宗派による法要では、儀式・仏具などが異なり法衣や袈裟の色も色々で帽子をかぶっている派もあり、厳粛の中にも華やかさを感じました。  
おたのしみの講演では海援隊の武田鉄矢さんが、ご両親等との思い出を「クソッとする楽しい話」を交えながらも真摯に語っていらつしやいました。  
最後に武田鉄矢さん原作の絵本「月がのぼるまでに」を熊本のカナウンスターの政木ゆかさんが、ピアノ伴奏つきで朗読されました。「月がのぼるまでに」は戦争中にアメリカ兵の捕虜と純朴な少年の心温まる本當の話を武田さんが絵本にされたとのことですが朗読の静かで温かい余韻を残しながら祈念法要は終わりました。



熊本城ホールで講演をする武田鉄矢さん

今年も早くも半年が過ぎた。年々感じることはあるが、今年も昨年よりも暑くなるのではないかと感じる日々である。寒い時期がようやく終わったと思えば、すぐに暑さが襲ってきた。春と秋がなくなってしまうのではないかと。移り行く日々の中で、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。時々ふと考えさせられることがある。私は何のために生きているのかということである。誰しも一度は考えたことがあるのではないだろうか。人間だけがこのような問いをもつのか、分らない。がとにかく、そういうことを思う時がある。

### 目録 「表白」に は命という

ものを終えるときは「時を選ばず、ところを定めず」とある。私たちは生まれたからにはいつ終えるかわからない命を生きている。大事な命は自分だけで生きているわけではないということである。そんなことは当たり前だと思ふ自分もいる一方で、本当にそれを実感できているのかといわれると、考えさせられる。  
親鸞聖人の七百五十回忌御遠忌のテーマである「今、いのちがあなたを生きている」という言葉を何度でも確かめていきたい。  
（宮地聖光）

それが真宗寺の仏青という形のものでございます。仏教青年会といいますが、実際はもう仏教青年会、あるいは仏教老年会みたいになっている面もございませう。というのは、昔の青年がみんな年取ってしまっていて、若い人がもうあんまり来ないという状況が続きましたからね。だけれど、そういう仏青がやって来たことを考えてみますとね、やはりこれを受け継いでいくということを考えますと、仏青というのも一つの集団組織でございませう。そうすると人間の集まりについているあるんですよ。綺麗ごとではすみません。そこではやっぱり指導者になりたい人も出てきますしね。親分をしたい人も出てきますしね。そして、人間の好き嫌いもありませう。なかなか、そういう集団といのは難しいものでございませう。宗教の集団、集まりもそういう点はやはり免れるものじゃございませう。

ところで、やはり真宗寺も先生没後、一山二山あったわけですね。しかし、なんといつても、お孫さんの薫人君が住職になり、この度の御遠忌で住職のお披露目という意味もあつた。その子が見事に成長してくれました。というのが、第二高校に行ってラグビーをやった。それから福岡教育大学に行ってラグビーをやった。このラグビーをやったというのが、一つ大きなたたかもしれませんが、さわやかない青年になってくれました。やはり何といっても、お寺の子ですから、お父さんも富山県の僧侶でいらつしやいましたからね。お父さんから受け継いだ仏法というものが、理屈ではなくて身体に染み付いているんだろと思ひます。



石牟礼道子さんのお墓の完成に際し、不知火忌の参加者に報告する渡辺京二さん



# いのちの祈り その4

―「群萌の会」講義録―

## 宗正元師 講述

### 無明を破す

親鸞聖人がわざわざ晩年に『和讃』をお書きになるのは、私どもの根本問題をあきらかにして下さるためです。南無阿弥陀仏が、私どもにとってどういう意味があるのかということを『和讃』を通していただいていかないといけない。そういった大事な時代じゃないでしょうかね。

すよ。命を大事にというけれど、どうすることが命を大事にすることなのか。

今日私どもが抱えている、無明じゃありませんか。誰もが一番関心を持つておりながら、それがはっきりしない。いい加減にしておる。そういう無明を破る。南無阿弥陀仏のはたらきを、親鸞聖人は「名を称するに衆生の一切の無明を破し」といった。どんな人も抱えておるもの、それを衆生一切の無明といった。衆生と云うのは、世間でいえば、賢い人、偉い人、立派な学者のような人とかいろんな人がおる。あらゆる人々、どのよう

### 名を称するに

一部の人が抱えておるのではない。衆生といってもいろんな人がいます。どのような人であろうと。昔の人であろうと、今日の人であろうと。善人であろうと、悪人であろうと。若い人であろうと、年寄りの人であろうと。要するに、衆生一切のことです。

「名を称するに衆生の一切の無明を破し」と言ってね。「名を称するに」って、主語がないでしょう。誰が称するのを書いてない。名を称するっていうのは歴史です。南無阿弥陀仏になつておる本願に

「名を称するに」って、主語がないでしょう。誰が称するのを書いてない。名を称するっていうのは歴史です。南無阿弥陀仏になつておる本願に

これを英語で翻訳する時に問題になりました。誰かの称名と、そんな言い方はしてないんです。わざわざ主語がないんです。

いんです。私も英語に翻訳する時に、ちょっとしたお手伝いをしましたけど。

つまり簡単に言えば、仮に名前を挙げれば、『正信偈』に七人の人の名前がある。ああいう方々でなくても、無名の

高僧のような人でなくてもいいんです。南無阿弥陀仏の魂を

超えて、国を超えてます。日本

北と南でもえらい違うんですよ。同じインド人と言えない

南無阿弥陀仏に称う。称うというのは南無阿弥陀仏の道を歩いて行かれた方々の歩みです。名に称うっていうのは、すよね。『称』っていうのは、南無阿弥陀仏になつていて願心に

帰し、大悲の願に生きるといいうことですよ。名を称する超えて、民族を超えて、人々の中に流れてきた。それを「名を称するに」という一語で言

いあらわしている。個人じゃないんです。その歴史です。そういう人々の歩みが、誰も

が抱えておる、そういう無明を破る。誰もが抱えておる無明

明っていうのは、いのちについて

言え、自己自身です。誰もが自分自身のこと

つもりでおるけど。自己自身について

それがいい加減になつておる。それを照らし出す。それを破る。どんな人にとつても、それが

それが志願になる。願になるような願を成就する。

### 志願を満てたまう

その後に「よく衆生の一切の志願を満てたまう」と出てきます。衆生の一切の志願です。ね。わざわざ「一切の志願」と言っているのは、どんな人にとつても志願を満たす。具体的な大悲の願についてい

は、そういう意味を持っています。誰かの夢を描くというように、そういう話ではなくて。もうどんな人にとつても志になる。そういう大事なことがですね「名を称するに」というところに取

り上げられている。いのちがわからないまま生きておる。何がいのちなのか。わからないまま大事に

している。これが大きな無明です。そういったことを親鸞聖人は「命濁」といわれた。いのちを見失つて

は五濁悪世の時代であつて、そういう時代を生きる身であるという悲しみ、それと同時に

とそれが大事なこと。そういう意味で親鸞聖人は五濁の世とい

ことを『和讃』にしておられます。「命濁中天刹那に依正二報滅亡し 背正帰邪まさるゆえ 横に

わしてます。いのちを見失つておる、そういう私どものいのちを回復させてくださる。本

成就してくださる。それが南無阿弥陀仏になつておる

の、仏さまだということを

はつきりと明らかにして下さったのが親鸞聖人の教えですね。仏の名号といつて。南無阿弥陀仏を仏の名号と。名前という意味じゃないです。仏のはたらきをあらわして下さっている。仏のはたらきを私どもに回向して下さっている。そういう意味があらわされているのが仏の名号という言葉です。仏の名前という意味じゃありません。仏の心です。

「名」ということであらわされておるのは、本願です。「号」であらわされているのは光明です。そういうことが親鸞聖人の「自然法爾章」に詳しく出ております。念仏の道は自然法爾の道であるということですね。『正像末和讃』の一番最後のところに取り上げられています。そこに仏の名号について、「名」というのは仏の因位の位をあらわす。因位というのは本願のことです。それから、「号」のほうは果位をあらわす。それは光明です。私どもの上に本願が成就するんです。

「本願に帰し、本願に生きる」とそういう意味の本願。生涯をそのこと一つに生きる。いわばいのちになるものですね。それが本願というものです。その果報を受ける。どうい

ことかという、本願がはっきり定まることによつて「本願に帰し本願に生きる」という、そういう生き方が決まることによつて、初めて私どもの無明の闇が破れるということです。そういう意味が光明です。そういうことが取り上げられております。

(次号に続く)

## 行事予定

7月 1日 (火) 『歎異抄聴記』輪読会

9日 (水) 脳トレ健康体操

23日 (水) 脳トレ健康体操

28日 (月) 定例法座 『正信偈』に聞く

29日 (火) 夏季研修会

30日 (水) 講師：佐野 明弘 師

8月 1日 (金) 『歎異抄聴記』輪読会

15日 (金) 盆踊り 午後7時

27日 (水) 脳トレ健康体操

28日 (木) 定例法座 『正信偈』に聞く

9月 1日 (月) 『歎異抄聴記』輪読会

10日 (水) 脳トレ健康体操

22日 (月) 秋・彼岸会法要

24日 (水) 講師：譽田 和人 師

28日 (日) 定例法座 『正信偈』に聞く

◆定例法座『正信偈』に聞く ⇒午後1時30分

◆『歎異抄聴記』輪読会 ⇒午後2時00分

◆脳トレ健康体操 ⇒午後2時00分

※各学習会、行事については日程を変更する場合もありますので事前にお問い合わせください。

☎096-368-3759 ✉shinshuji@triton.ocn.ne.jp

真宗寺 ホームページ

URL <https://www.shinshuji-kumamoto.com>